

総 括

大阪商工会議所金属部会は2003年11月9日（日）より11月15日（土）の7日間、総勢33名からなる「上海経済圏・金属産業視察団」を派遣致しました。

当金属部会では1994年5月に中国へ金属産業視察団を派遣し、現地の金属関連産業を視察いたしましたが、その後、10年近く経過し、この間の中国の経済発展・技術進歩は著しく、「世界の工場」として急速に発展・変化を遂げておりますことから、2003年2月の正副部会長会議で中国の金属産業の現状を探るべく視察団を派遣してはどうか、とのご提案をいただき、その後の正副部会長会議で時期や訪問先を検討いたしました。

そして、今回は中国の中でも特に成長著しい上海と、その成長を補完する地域として急成長している寧波、杭州、湖州といった上海経済圏の諸都市を訪問し、同地域における金属関連企業の技術や製品開発の状況を視察するとともに、各地行政関係者や経済開発区幹部との懇談を通じて、大阪の金属産業の一層の活性化と今後の対中ビジネス成功への方策を探ることにいたしました。

上海経済圏の4都市を7日間という短い期間で回る視察でありましたが、初日、2日目を除いては概ね好天にも恵まれ、視察・懇談においても内容の濃い充実したものであったと存じ、改めて団員各位のご協力に心から感謝申し上げます。

各都市での訪問内容についてですが、まず、上海では、上海市経済委員会を訪問、その席で経済委員会の劉高級経済師や宝鋼鋼鉄グループの関係者と中国の鉄鋼需要の動向について懇談いたしました。次に、中国製造業のレベルを確かめるべく中国最大級の総合工業見本市である上海国際工業博覧会を視察し、また、人材育成の面から日中合併の金型技術者養成センターを、さらに建築金物の売れ筋動向の面からホームセンターを訪れ、各々視察・懇談いたしました。

次に寧波では、鄞副市長を表敬訪問、鄞副市長からは港湾都市として発展する寧波の将来像についての紹介がありました。また、寧波は中国における「金型の故郷」と呼ばれており、3000社を超す金型メーカーが集積しています。今回はそのうちの香港系企業を訪問、中国での経営戦略について話を聞くとともに、日系の合併企業である寧波宝新ステンレス有限公司では、旺盛な鉄鋼需要を賄う同社の製造ラインを見学いたしました。

続いての杭州では、国家級のハイテク産業開発区を訪れ、外資の進出状況や優遇策についての説明ののち、広大な開発区内をバスで視察し、開発区内の日系電子部品製造会社である大和熱磁電子有限公司を見学いたしました。

最後に訪れた湖州市長興県は、長江デルタの交通要所に位置しており、人民政府幹部から今後、発展が見込まれる同県の概況について説明を受けるとともに、すでに同県に進出している在阪企業の経営者から、進出の際の留意点などについて話を聞きました。

また、現地では視察と並行して、対中ビジネスにおいて重要な課題である「生産・販売戦略」や「販売代金の回収方法」などについて最新情報を入手すべく経営コンサルタントや弁護士を招き、ブリーフィングを受けました。

私自身、今回の視察で上海へは20年ぶりの訪問となりましたが、20年前とうって変わった近代的都市に変貌を遂げている上海を目の当たりにいたしまして、驚きとともに中国経済のダイナミズムと人々のバイタリティを強く感じた次第であります。今回訪問いたしましたいずれの都市でも、日本企業の進出を熱望しており、海外からの投資による経済発展への期待は非常に大きなものであることを実感するとともに、併せて成長著しい上海経済圏の実情や中国進出の際の留意点等も把握することができました。今回の視察は今後の対中ビジネスを考える上で大いに示唆に富んだ勉強の場であったものと存じ、参加者一同、所期の目的を達成することができたものと自負いたしております。

本報告書が部会員の方々はじめ大阪商工会議所会員の皆様にとりまして、中国への投資など取引を検討される際に、いささかでもお役に立てば幸いです。

終わりに、今回の視察に際しまして、大阪商工会議所中国ビジネス支援室はじめ関係各位に大変お世話になりましたことに厚くお礼申し上げます。

2004年1月

大阪商工会議所

上海経済圏・金属産業視察団 団長

金属部会長 松本 重太郎